

## 第 284 回(11 月)

### 金融破断がもたらす日本経済への影響を検討する

#### ー 98 年企業はどう対応すべきかー

朝日新聞社 経済部（日銀チーム・キャップ） 杉浦信之氏

（杉浦氏冒頭の発言ー「近い将来に今を振り返れば、現在、起こっていること、これから起こることは金融恐慌と呼ばれているはずである。」）

北海道拓殖銀行がつぶれる噂が流れても、またつぶれても、実際に店舗に行くと、大正期の金融恐慌のように窓口の人が殺到して争うような、いわゆる取り付け騒ぎは起きなかった。意外に平静にことが進んでいた。ひとつにはこれは ATM の存在による。口座を解約しなくても、預金は ATM でよその銀行の口座に容易に移せる。拓銀の預金は、倒産前から我々が見えないところで加速度的に流出していたのである。事実、道内の地方自治体の預金を獲得するために、拓銀は地方銀行よりも 0.5% も高い利率を提示していた。北海道での拓銀の預金の地位を考えても、地銀よりも高い金利をオファーするなど今までは考えられないことだった。よほど資金繰りが苦しかったのだろうが、この情報が拡散して拓銀危機説にますます拍車がかかり、ますます資金繰りが追い詰められて行ったのである。ATM の余談だが、現在、消費者金融の ATM がいたるところに目につく。「お自動」「無人くん」などの無人店舗が、安易な貸出しに繋がり、サラ金地獄に人を陥れているという批判がある。しかし消費者金融の側は、無人店舗で機械的に審査した場合の方が、通常の店舗の窓口で担当者が審査する場合よりも融資比率が下がると反論する。無人店舗の良否の問題は別にして、確かにこれはリスクの論理に適っている。対面方式だと、担当者の主観的な判断が働いてしまう。が、機械的処理の場合は厳密に基準が守られる。ある基準を満たさないと自動的ににはねられてしまい交渉の余地はない。実際、無人店舗の方が貸し倒れの率が低いのは事実であるようだ。

さて、拓銀は北洋銀行に営業譲渡した。北洋銀行の頭取は、「拓銀の話は聞くが、これは合併ではないので（拓銀の）債権を引き取るか、引き取らないかは我々が決める」と言い切っている。北洋銀行は不良債権の比率が少ないし、もともとそういう経営をやってきた。その上、規模にしても拓銀よりはるかに小さい。となると、どれだけの債権を引き受けるであろうか。

北洋銀行が要らないと拒否した債権は、即、不良債権と見做されるのである。そしてそれは預金保険機構が引き取る。さらに預金保険機構は、それを整理回収の銀行にまわすのである。銀行と言っても要は取り立て専門の機関である。北海道中に無数にある拓銀の融資先企業は、今、その事態を深刻に恐れている。